

クイズに答えて素敵な商品をGET

Q テレビドラマ 時代劇「暴れん坊将軍」のモデルとしても知られる、第8代将軍徳川吉宗。その徳川吉宗は米に関する政策を多くおこなったことから、米将軍や八木将軍とも呼ばれていました。では徳川吉宗がおこなった政策とはなんですか？

① 享保の改革 ② 寛政の改革 ③ 天保の改革

応募方法 プレゼントの応募方法同封のハガキ解答欄に回答をご記入の上、御返信下さい。

方法 ① 300周年特別謹製 博多人形「恵比須神」5名
② お米(2kg) 5名
③ お墓の水垢とりに便利「スクレーパー」5名

応募期間 2017年9月30日(土)(消印有効)まで

当選発表 賞品の発送をもって当選とさせていただきます。

皆様のご応募
お待ちしております



～お便りありがとうございました～

前回の第31号では439名の方よりハガキの回答をいただきました。ありがとうございます。さて、中でもご質問が多かったことにお答えするコーナーを設けました。

お墓参りっていいね!のコーナーにて、小説家の遠藤周作さんの著作「明日という日があるじゃないか」の一文「墓について」を紹介いたしました。その中でフェレイラ(クリストヴァン・フェレイラ)のお墓が出てきましたが、そのお墓はどこにあるのかというご質問をいただきました。

以前は長崎のこうたいじ皓台寺に埋葬をされていましたが、その後東京品川のとうかいじ東海寺、そして現在は谷中の瑞輪寺の杉本家(娘婿の関係)のお墓に合葬されています。フェレイラは棄教後、沢野忠庵という日本名を与えられます。今もお墓に忠庵浄光先生という文字が残っています。

お墓の相談室 疑問・質問コーナー
〔お墓のお掃除編〕で掃除道具のスクレーパーがどこにあるのかというご質問をいただきました。

どこのホームセンターでも購入可能です。少しご説明しますが、お墓は常に外にあるものですので、当然汚れや水垢が付着します。スクレーパーはブラシでは落ちない水垢をこすって落します。私たちが購入するものは替刃タイプの小さめのもので、前号の写真を元に探してみたいかがでしょうか？

ご意見・ご感想・質問などどんなことでもお便り下さい。

創業300年 技術の

国松石材株式会社

平尾店/福岡市中央区平和3丁目12-27(平尾霊園下)
TEL 092-401-4194 FAX 092-401-4189

工場/福岡市東区松田3-6-12
TEL 092-629-1189 FAX 092-629-2043

<http://www.kunimatu.com>

編集後記

いつも「松ぼっくり」をご愛読いただきましてありがとうございます。昨年まで「松ぼっくり」を年2回の発行をしてまいりましたが、今年より年1回の発行となりました。今後とも宜しくお願いいたします。

(国松祥治・田中俊晴)

松ぼっくり

- 1 季節の小話
- 2 ご挨拶「爾来300年を感謝して」
代表取締役 国松良康
- 3 300周年記念祝賀会
- 4 Memory in me あの日、あの時
11代 私のの中の記憶
- 5 しもごふくまち
- 6 第32回 町名散歩「下呉服町」
- 7 国松さん、今なんしようと？
博多町人文化勲章 受章
- 8 クイズに答えて素敵な商品をGET!



季節の小話 山の日

昨年8月11日を祝日として制定された「山の日」。国民の休日が増えたのは海の日以来の20年ぶりだそうです。今年の「山の日」は金曜日ですので、連休が長くなるサラリーマンにとっては嬉しい声が聞こえてきそうです。そもそも「山の日」ができた理由は、「海の日」があるのになんで「山の日」はないのか？という軽い感じで祝日を作ろうという動きでできたようです。

「山の日」の意味としては『山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する』という事らしいのですが、このようにせつかく山の日ができたわけですので、健康のためにも山登りなどするのもいいかもしれませんね。



爾来300年を感謝して

十一代目からのご挨拶



十一代目
國松良康

享保2年(1717年)博多の地で『國松石材』を創業致しました。

爾来300年、十一代に亘り“石”を生業として多くの方々に支えられ、途切れることなく代々繋ぎ今日を迎えることができました。

江戸時代から、明治、大正、昭和、平成と多くの時代を経験し、墓石、鳥居、灯籠、記念碑等、石一筋に後世に残る仕事のお手伝いをさせて頂きました。

今日300周年という節目を迎え、私たちが変わらず石材業で生かされているこの奇跡に感謝しつつ、これからの新しい時代を見据えながら努力をして参ります。

國松石材を代表致しましてご挨拶申し上げます。

初代～十代の系譜

初代 善兵衛

享保十八年(1733)三月廿日 没

二代 仁右衛門

御笠川に投げ入れた石がかなりの大きな石と伝わる。
明和六年(1769)十二月十三日 没

三代 市三郎

信仰心が厚く、浜で拾った木片が観音様と感じ手厚く祠の中で祀る。
寛政八年(1792)十月廿三日 没

四代 市三郎

大野城市四王寺山の三十三ヶ所靈場に作品あり。市三郎の名と寛政十二年(1800)庚申八月の銘を残す。
天保三年(1832)三月三日 没

五代 清次

五代を継ぐも早くに亡くなる。
天保七年(1836)四月六日 没

六代 清次

津屋崎花田家石屋より下呉服町へ。化け灯籠が津屋崎石、婿入り土産として残る。
弘化四年(1847)三月廿日 没

七代 清次

五島列島から板石を仕入れ成功。染物屋の床などの敷石として販売する。
明治二十一年(1888)旧九月廿四日 没

八代 清右衛門

東公園 亀山上皇の台座製作に携わる。台座に銘あり。
明治三十九年(1906)潤四月六日 没

九代 清助

榎田神社大鳥居指揮。車力のレンタカーなどで成功。
昭和廿五年(1950)四月二日 没

十代 大次郎

宗像大社祈願殿前に古代型狛犬を制作。石造美術に造詣が深く学究肌の文化人。
平成四年(1992)九月七日 没

社是
誇学愛



九代目 清助指揮 榎田神社鳥居工事

300周年記念祝賀会

今春3月22日、ホテル日航福岡において記念祝賀会を開催いたしました。

300周年に合わせておおよそ300名の方にご臨席をいただき、記念の節目をお祝いしました。

享保2年(1717年)に初代國松善兵衛が筑前博多の地にて創業した弊社は、これまでの300年間において墓石、鳥居、灯籠、記念碑等石一筋の事業を展開。四王寺三十三観音靈場内摩崖仏をはじめ、福岡市東公園 亀山上皇台座、榎田神社、住吉神社、筥崎宮の鳥居工事、宗像大社での狛犬製作、太宰府天満宮の歴代宮司奥都城ならびに御神橋改修工事、本殿外陣石工事、また近年は福岡城石垣修復工事などを施工させて頂いてきました。

これまでたくさんの方々のご縁とご支援があって今日があります。

こうして小誌「松ぼっくり」をお届けさせて頂いている皆様へ感謝申し上げます。

ご来賓のご祝辞

創業300年、國松社長本におめでとうございます。

一言で300年と言いますが、凄いことだと思います。

300年続くということは今の社長だけではなく、私は先

祖様も偉かったと思います。ご先祖がちゃんとバトンを渡してくれたからこそで、次の時代にバトンを渡していく仕事をしているのです。

私も次の時代にどう渡すかを一生懸命考えております。永遠のものを守り続けていくことはつまり、1点ずつプラスしていくことではなかるかと思ひます。

常に今だけではなく過去と未来を繋ぐ仕事をしていくには、ただ単に繋ぐだけでは残せない。そこに汗をかき手を入れ続けることで初めて伝統や文化が含まれるような気がします。

それを300年やり続けた國松石材さんは本当に凄い会社だと改めて思う次第です。

ある意味では福岡市、いや九州の文化財です。これから先の50年100年に向かって一步一步社員の皆さんと共に努力し350年400年を迎えて頂きたい。



太宰府天満宮 宮司
西高辻 信良 様

國松先輩、國松家、國松石材株式会社の皆さま、300周年誠におめでとうござい

ます。私は久留米高専時代の先輩後輩の間柄になりますが、当時ラグビー部に入っ

ておりましたので、國松先輩とは余計に関係が強く、卒業して40年たった今でも続いています。

享保二年は、徳川吉宗が八代将軍になり、享保の改革をしている時です。

そして今年、明治維新から150年という年になります。明治維新の年が國松石材はちょうど創業150年、ラグビーで言うとハーフタイムになります。

それからまた150年という時間が流れ今日に至っているこの持続力はすごいと思います。一代でできることは限られていますが、この限界を超えるにはどうしても継承が必要になってきます。その間には沢山のノウハウが蓄積されていると思います。

ぜひとも國松石材株式会社の300年後を作

って頂く為にも奮闘して頂くように祈念し挨拶とさせていただきます。



直木賞作家
安部 龍太郎 様

國松社長とは中学の同級生で青年会議所も一緒でした。

創業100年を数える会社は全国に33000社ほどありますが、300年とい

うと600社しかない。創業年の時代に流

行っていたのが歌舞伎と川柳です。歌舞伎は初代市川海老蔵が活躍している時代だったそうで、現在の市川海老蔵が11代目

なのですが、社長も11代目ですね。時間の軸を考えるとわかるのではと思います。

宗像大社に勤められていた奥様と出会い、5人のお子様を育てられました。時代承継というものが非常に大事で、國松石材を次なる300年に向けて育てていこうという体制が

できていることが國松石材の大きな特徴だと思います。

もちろん歴代がやってこられたことが一番大事だと思いますが、社長の経営者として慎重かつ大胆な経営、5人のお様が色んな形で石を繋ぐ後継者として今後1000年に向けて発展していく企業になると思っております。

これからますます國松石材が発展致しますよう祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



福岡商工会議所 会頭
磯山 誠二 様

乾杯



筥崎宮 宮司
田村 靖邦 様



乾杯風景



國松家と社員紹介

國松 良康 Memory in me



あの日、あの時・・・
私の中の記憶を描いてみた。

以前の工場と作業風景

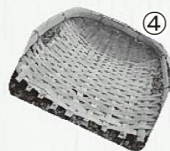
トラックは2t車の1t吊りクレーン付き。この絵よりも一昔前(私が小さい頃)は馬車が石を運搬する為に来ていた。また、リフトもない頃は座板の厚いのをかけていなって荷台まで上げていた。曲芸だ、危ない!①

リフトは最初1t車から、1.5t、2tリフトを買った時は大きいなあと思った。またリフトは歩道を走るし、石は置きっぱなし。路駐は当たり前で警察も何も言わない時代だった。②

絵では一箱だけど、砂入れは古い風呂桶で2段に重ねて歩道に置いていた。③

小柄な職人さんが多く、身長150cmくらいから160cmくらいまで。体重はたぶん50kgくらいと思う人が海老ジョウケに一個しか入らない位の大きな石ゴツパを抜ける姿は真に職人。

神技。今の若い人のゴツパはその10分の1くらいと思われる。また私が新米の仕事の中で朝からのゴツパ拾いがあったが、その海老ジョウケに入らない石ゴツパの端のところが指を切ったことが今思えばすごいことと思う。④⑤



矢穴の彫り方も芸術的で、見事に石が言うことを聞いて素直にその方向に割れ、殆どがまだ手作業の時代だった。⑥

リフトで動かすより2人で「いなった」方が早いので「ハグリ」というロープをかけて2人で尺三寸(380k)をいなっていた。今の若い人は想像がつかないと思う。大きい石は4人〜6人でいなっていた。社長ではなく「親方」と呼んでいた。⑦⑧

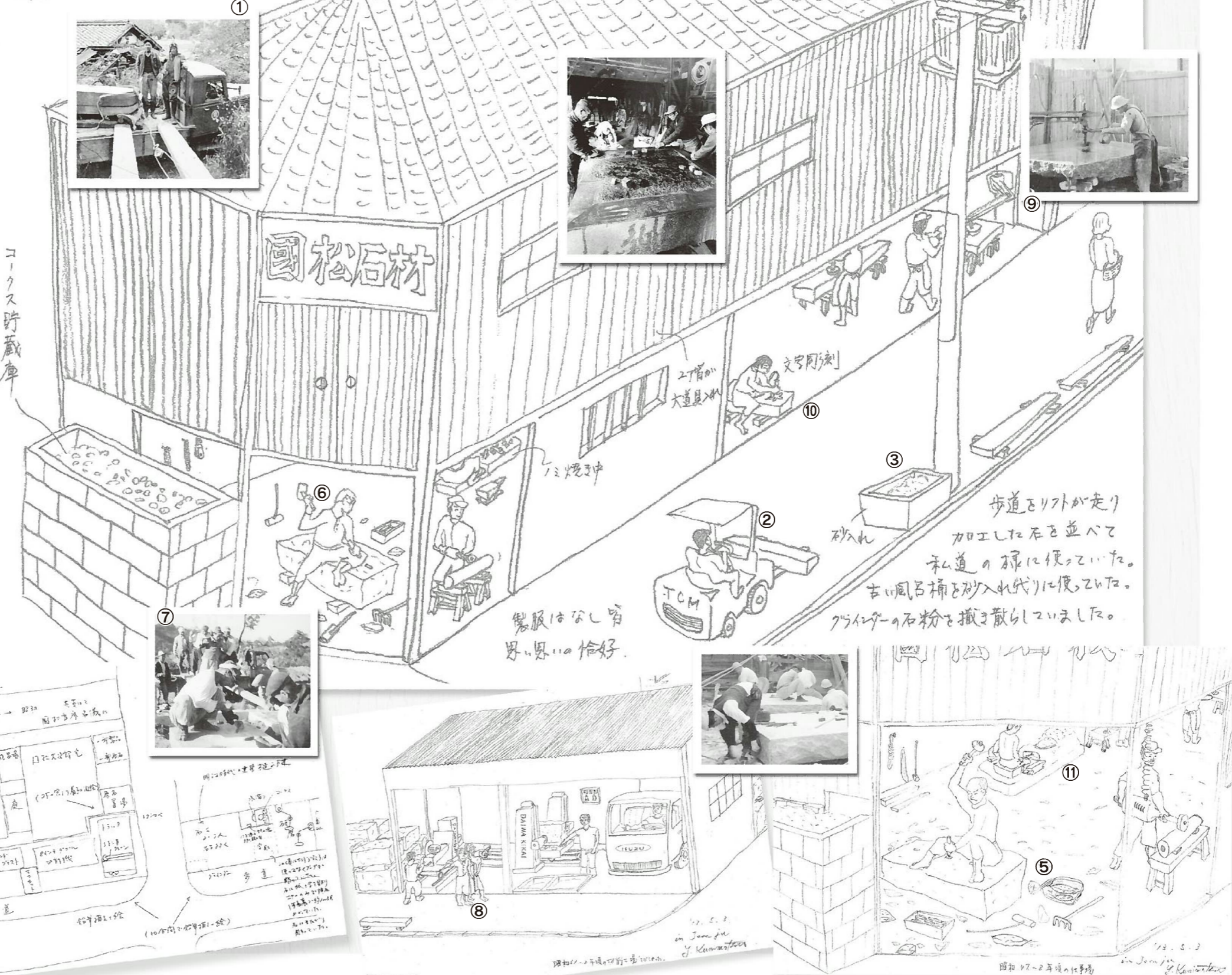
研磨機は相当古い今にも止まりそうな年代物。⑨

文字の彫刻は私の小さい頃は100%手彫りで、高専に行く頃くらいからエアでノミが入り出す方式に変わり(今でもこの方法は現地彫りでは使っている)その後サンドブラスト方式(昭和50年過ぎ)に変わっていった。⑩

ノミ焼きは朝早くから。一人1日15本くらいはつぶしてしまうから、5人くらいの人が代わり交代して焼いていた。ノミ先の赤い色がピンクになるちょっと前で叩いて尖らせ、暗い赤で水に入れて焼きを入れる勘所が難しい。⑪

休みは1日と15日で月2回の賃金払いだった。いつも同じ人が使ってしまう、判取帳に前借りのサインをする人は毎月同じ人だった。

昭和45〜50年頃の
下島服町(旧横町)の風景
(戦災をまぬがれた明治時代の建物)



第32回
町名散歩
しもごふくまち
下呉服町

下呉服町

今回は、國松石材創業の地・博多区下呉服町を散策します。あわせて、享保2年（1717年）まで、さかのぼってみましょう。

江戸期、現在の博多区下呉服町は^{たてちょう}塀町・^{はまぐちまち}浜口町・^{かがみちよう}鏡町・^{よこまち}横町・^{にじゅうやまち}廿家町から成っており、商人・職人の町でした。

時の將軍は徳川吉宗公。享保元年（1716年）に、紀伊藩主から第八代將軍に就任しています。翌1717年には、皆様お馴染みの(?)^{おおおかえちぜんのかみただすけ}大岡越前守忠相を江戸南町奉行に登用。この時期に生まれた元禄文化は、商業をはじめとする経済発展を背景に華麗な芸術が花開いたとされており、その主な担い手は町人達でありました。

中央はさておき、その頃の福岡は第五代藩主黒田宣政の統治下にありました。ご城下博多の町々も、元禄の世のご多聞に漏れず、活気溢れる町人達によって華やいたことでしょう。

弊社発祥の地は、横町にあたります。当時は^{かなやちようよこまち}金屋町横町といわれました。

江戸末期には石工・大工・真鍮銅細工などのほか、行商人宿、小道具屋などが立ち並んだとか。その名残を伝える古き良き町並みも、昭和初期の空襲でほとんどが焼けてしまいました。

平成13年（2001年）に奈良屋小学校跡地に近隣4校が統合され、その博多小学校から昭和通り沿いに蔵本交差点を呉服町ランプ方向へ抜けると、下呉服町です。左手に浜口公園が見えてきます。

かつての風情を偲ぼうと、狭い路地へ入ってみました。時折小さな町屋を見つけることが出来ます。更に町の中ほどまで進むと、沖浜恵比須神社に至ります。今は鉄柵に囲まれているこの神社ですが、昭和半ばに撮影された写真では、子供達の恰好の遊び場でした。また、社号表に「筥崎宮境内末社」とあるように、下呉服町一帯は昭和初期まで筥崎宮の氏子であったそうです。

ぼうっと立っているすぐ横を、現代っ子達が自転車を飛ばして駆け抜けて行きました。時は流れてもこの町には、今も昔もかわらないものがあります。



昭和61年の博多松灘子「恵比須流」代表を10代目、國松大次郎が務めました。



今年の博多松灘子「恵比須流」代表を弊社社長が務めました。(前列中央)

※2枚の写真は弊社創業地前での撮影です。

國松さん、
今なんしようと?

第43回 博多町人文化勲章 受章

福博の伝統文化や街の発展に貢献した個人・団体に博多町人文化連盟（西島雅幸理事長）が贈る「博多町人文化勲章」。今年度、國松石材が選ばれ、先日6月9日に行われた授章式「もらって頂く会」で勲章と感謝状をいただきました。

弊社社長は「先代十代の國松大次郎が頂いた栄えある同じ章を二代に亘って頂けるのは光栄です。初代からの歴史を先代に聞かされて育ち、先祖も今回の受章を喜んでいるのではないのでしょうか。今後も時代の流れに沿いながら進化し続けるということを念頭に100年200年と続くように頑張る」と語り、これからも福博の一老舗企業としての責任に心新たにしました。



勲章



感謝状



授章式風景



受章者の皆さん 後列右から2番目が弊社社長

博多町人文化勲章「もらって頂く会」
福博発展功績たたえる

福博の伝統文化や街の発展に貢献した個人・団体に贈る「博多町人文化勲章」。今年度、國松石材が選ばれ、先日6月9日に行われた授章式「もらって頂く会」で勲章と感謝状をいただきました。

福博の伝統文化や街の発展に貢献した個人・団体に贈る「博多町人文化勲章」。今年度、國松石材が選ばれ、先日6月9日に行われた授章式「もらって頂く会」で勲章と感謝状をいただきました。

福博の伝統文化や街の発展に貢献した個人・団体に贈る「博多町人文化勲章」。今年度、國松石材が選ばれ、先日6月9日に行われた授章式「もらって頂く会」で勲章と感謝状をいただきました。



博多町人文化勲章の「もらって頂く会」で増えに並んだ受章者たち

司理長(69)は「伝統的な博多松灘子の通りもんスタイルを守りたい。スナックビル1期生の和田康子さん(66)は博多区は「博多っ子の私には欲しくてたまらなかつた名譽です」と笑顔を見せた。(益田孝)